

1. 評価結果概要表

作成日 2008年10月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4271101554		
法人名	社会福祉法人 清潮会		
事業所名	社会福祉法人清潮会 グループホームしおさい		
所在地 (電話番号)	長崎県西海市崎戸町蛸浦郷17番地26 (電 話) 0959-29-3111		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 20年 8月 26日	評価確定日	平成20年10月27日

【情報提供票より】(平成 20年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 77 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山崎医院、あきら歯科医院、中村医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い丘の上のホームの窓から港の眺めと潮の香、神社の鎮守の森迄の散歩等、漁師町で育った方々の日常の生活が続けられている。アパート・新興住宅・別荘等が建ち並ぶ一角で、地域の中に積極的に入り込めない思いで悩んでいた時期もあったが、市に働きかけを続けながらホーム単独で運営推進会議を開催できるようになり、地域の方からの提言や助言を頂き交流が深まって、雨が降り出すと洗濯物の取り入れを教えて頂いたり、ご利用者が間違っって伺った時も「来てくれてありがとう」と、昔ながらの近所付き合いが広がってきている。職員は地域の中で生活する事を意識して、ご利用者が持っている力を発揮出来るよう「待つ姿勢」で関わりを続け、共に支え合い『明るく、楽しく、ゆっくりと』を実践している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ①法人内のグループホームで共通の地域密着型理念・介護の目標を作成した②市と協議をし単独で運営推進会議を開催するに至り、地域行事の予定や参加のお誘いを頂き、地域との交流のきっかけになっている③中学生が慰問に来て頂いたり、ご利用者と一緒に近くの神社に散歩に行った時に、落ち葉を掃いたりゴミ拾いをしている④ターミナルケアについての方針をお伝えし、ご利用者の状態変化時に医師・ご家族・職員と話し合いホームでケアできる範囲の対応をしている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 所長は一年間取り組んできた事を基に現在のケアの状況を振り返りをする説明し、各職員が自己評価項目を分担して記入し、全員に回覧してそれぞれの意見を付け加えながら一つにまとめた。前回評価結果を基に全職員で話し合い、改善策を検討して計画書を作成し取り組みを続けている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 近隣の数か所のホームと合同で運営推進会議を開いていたが今年から単独で開催し、事前に会議のご案内・出席確認を行い、ご意見に基づいた事業所の取り組みの報告したり、地域行事の予定を教えて頂いたり参加のお誘いを頂き、地域との交流のきっかけになっている。地域に入り込み難いと感じていた部分が、地域の方の後押しを頂きながら関わりが深まり広がっている。市役所へ電話で情報提供をおこない、社会福祉協議会の方が来られた時に、情報交換等を現在も続けている。認知症ケア学会で介護予防教室を主催しており、その時に地域の方から頂いたご意見等を市へ報告している。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族の来訪時に外出時の写真をお見せしながら暮らしぶりを報告し、職員の異動がある時は自己紹介している。近況を手紙に書き添えたりご本人の言葉を代筆してお送りし、「ご家族の声が聞きたい」と言われた時はお電話でお話して頂いている。受診前や受診結果・薬が変更になった事を必ずご家族に電話で報告している。ご家族来訪時に「行き届きませんが気付いた事は言ってください」とお尋ねしたり、ご意見箱を設置してご意見等は記録に残している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自己申告制で運動を15分間続ける“西海市チャレンジデー”に、ご利用者と一緒に参加したり、敬老会に中学生が踊りや合奏の慰問に来られたり、秋祭りの獅子舞にご利用者の部屋に入って頂いた。地域性もあり交流が難しい時期があったが、崎戸の花火大会の時に一番良く見える席を用意して下さったり、ご利用者が迷って、地域の方の家に上がられた時に「来てくれてありがとう」と言って頂けるようになった。ご利用者と一緒近くの神社に散歩に行った時に、落ち葉を掃いたりゴミ拾いをしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念を基に職員で話し合い、H.20.4に法人内2か所のグループホームで『心のふれあい、信頼関係、地域を支え地域から支えられる』を盛り込み、地域密着型サービスの理念として共有している。ケアの拠り所として『明るく、楽しく、ゆっくりと』を目標に、ご利用者も職員も落ち着いて生活できるようにとの思いが込められている。年度毎に重点目標を決め、ご利用者も一緒に地域の中に溶け込んでいけるよう取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ご利用者のケアを通して気になっている事を側員同士で注意したり、お互いの意見を伝えたりしており、所長は職員の意見を基に理念について皆で討議している。職員の気持ちに余裕がない時にバタバタして、ご利用者への配慮が欠けている時があり『明るく、楽しく、ゆったり』と過ごす事やご本人の意思を尊重する事、地域密着型の理念を浸透させ理念に近づけるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自己申告制で運動を15分間続ける“西海市チャレンジデー”に、ご利用者と一緒に参加したり、敬老会に中学生が踊りや合奏の慰問に来られたり、秋祭りの獅子舞にご利用者の部屋に入って頂いた。地域性もあり交流が難しい時期があったが、崎戸の花火大会の時に一番良く見える席を用意して下さったり、ご利用者が迷って、家に上がられた時に「来てくれてありがとう」と言って頂けるようになった。ご利用者と一緒に近くの神社に散歩に行った時に、落ち葉を掃いたりゴミ拾いをしている。	○	自治会長を通して小学校との交流についてお話を頂いたり、法人本部から高校生の職場体験受け入れの申し込みをしている。地域との交流が深められるようホームからも、積極的に働きかけをおこないたいと考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理事長は評価の目的・活用について理解しており、実務は施設次長・所長に一任しており、所長は一年間取り組んできた事を基に、現在のケアの状況を振り返りをすると言明している。自己評価項目を各職員が分担して記入して、全員に回覧してそれぞれの意見を付け加えながら一つにまとめた。前回評価結果を基に全職員で話し合い、改善策を検討して計画書を作成し取り組みを続けている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣の数か所のホームと合同で運営推進会議を開いていたが、市と協議を続けながら今年から単独での開催に至った。事前に会議のご案内・出席確認を電話で行い、会議の目的やご意見に基づいた事業所の取り組みの報告したり、地域への関わり方の難しさをお伝えした所、地域行事の予定を教えて頂いたり気安く参加のお誘いを頂き、地域との交流のきっかけになっている。地域に入り込み難いと感じていた部分が、地域の方の後押しを頂きながら関わりが深まり広がっている。	○	ご利用者が運営推進会議に参加できるよう、その日の体調や状況に合わせながら、参加の方法や時間職員と検討される事が望まれる。会議録に発言者名だけでなく関係機関や職名を記載する等、いつ、誰が見ても分かりやすい記録となるよう更なる取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所へ定期的にお伺いする事はないが、手続き等は郵送でおこなったり電話で情報提供をおこない、社会福祉協議会の方が来られた時に、情報交換等を現在も続けている。相談事は法人を通して市役所に確認しているが、日常的に活動内容等をお伝えしている状況ではなく、市の合併前に行き来していた支所とも連携の機会はなくなってきている。認知症ケア学会で介護予防教室を主催し、その中で地域の方から頂いたご意見等を市へ報告している。	○	市町村と連携しサービスの質向上に取り組む為にも、まずは身近な支所との連携を深めることが望まれる。支所にお便りを持って伺う等の情報提供を通して、市担当者との連携につながる事に期待していきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の来訪時に外出時の写真をお見せしながら暮らしぶりも合わせて報告したり、職員の異動がある時は自己紹介している。毎月、立て替え金の領収書や請求書と一緒に近況を手紙に書き添えたり、ご本人が言われた言葉を代筆してお送りし、ご家族の声が聞きたいと言われた時はお電話するように促してお話して頂いている。受診前や受診結果・薬が変更になった事を必ずご家族に電話で報告し、ご家族が特に気にされている事を把握して個別の報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時に「行き届きませんが気付いた事は言ってください」とお尋ねし、季節の変わり目の寝具について等、ご家族の気付きを言ってくださる。ご意見箱を設置しているが「いつもお世話になって有難うございます」と、頂く事はあっても特にご意見や苦情等はなく、ご意見等は記録に残している。第三者委員を設置しご家族にお伝えしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内で人員体制や業務内容によって異動があり、忘年会等で法人職員とも親睦・交流の場がある。所長は職員が元気がない時や気になる時等、仕事以外の悩みも相談しやすい声をかけており、職員同士お互いに話をして解決できている。職員交代時はご利用者の状況に合わせて説明のしかたを変えたり、新規職員に所長が理念について話し、先輩職員がケア等の実務について情報提供・指導をおこない、出来る限り従来のケアと変わらないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長は外部研修の参加等積極的で、自治体や協議会主催の研修会、西海市認知症ケア研究会の勉強会に参加し、法人内との交流の意味も含めてホーム内で伝達しており、毎月、法人内他事業所と合同で勉強会おこなっている。各職員の適性を十分に把握しており、個別に達成目標についてや課題を伝えているが、長期的な計画として位置付けたものはない。	○	各職員の立場・経験・習熟度等に応じて段階的に力をつけていけるよう、職員毎の育成計画を作成されると共に、事業所内外の研修が自己研鑽の場となるよう期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	理事長は同業者との交流を積極的に勧めており、市の福祉施設連絡協議会の研修会や課題の検討会に、所長・職員が参加し電話・メールで日常的な情報交換をおこなっている。西海市の委託で認知症ケア研究会の中で、介護予防教室を主催し職員が参加している。	○	市福祉施設連絡協議会の支援部会で、数名ずつのグループを作り相互訪問を行う事を検討中である。相互訪問を行う事でお互いに刺激し合って、ケアの在り方を考え業務に還元していくことが考えられる。今後の質の向上につながる事に期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居のご相談を頂いた時や申し込みに来られた時に、ホームの見学をお勧めし、ご利用者から「ここに来んね」と声を掛けられ「自分も入りたか」と、入居に至った方もいらっしゃる。ご利用開始前に所長・ケアマネジャーが面接をおこない、何度か訪問し顔馴染みの関係を作り、情報を基に入居後の対応を職員間で話し合い、安心してご利用いただけるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者が、悩んでいる職員に「どうしたとね」と声をかけていたり、落ち着かれない方のケアをしている時に「せわな」と、ねぎらいの声をかけて頂き職員はホッとした気持ちになり、ご利用者から支えられていると感じている。若い職員は「ツワ」のむき方のコツや、草履作りの時の薫り、野菜の受粉を教わっている。以前、電気屋をされていた方に、電球を替える時に「こうすればいいですか」とご本人が答えやすい質問をしたり、漁師だった方には、魚の三枚下ろしの方法をお聞きしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族から今迄の生活習慣や趣味等をお聞きして、ご利用者が望む暮らし方について把握している。本来の生活から一人で居るのが好きな方が「一人で怖か、淋しか」と言われる時には、リビングの畳に並べて布団を敷き一緒に横になり安心して頂いている。明確に意向を表わさない時は趣味生活習慣等から、行動・表情の背景を推察し思いを汲み取ったり、職員間で話し合いを繰り返し意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者と話し合ったり、ご家族から予めご意見・気付きを言って頂き、全職員で話し合い現在行われているケアを介護計画に記載している。また、ご利用者のかかりつけ医からも、食事療法について、ケアの注意点・観察点等、助言を頂き計画に反映させている。ご利用者お一人ひとりの状況・思い等を踏まえた『その人らしく暮らし続ける』為の、課題・目標が介護者の視点になっているとともに、実際の介護では行われているが、『地域で暮らす』視点も殆どの方に盛り込まれていない。	○	今後は、介護者からの視点のみでなく、ご利用者の意向・思いも踏まえて課題・目標に掲げていくことで、『ご利用者自身の計画』にもなっていくと思われる。実際に行われている散歩や家族交流なども含めて、「地域で暮らす」という視点での計画を作成し、ホームでの生活状況やその方の今の時間を家族と共に共有するなど、今後の更なる取り組みに期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリングと6ヶ月毎に評価をおこない、ご利用者の身体状況や課題によっては、設定期間を短くして状況に応じて、臨機応変に見直している。新たなご要望や状態の変化が見られない方も、月に1回程度は検討をおこなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関の医師にいつでも相談できる状況で、往診して頂いたり専門的治療が必要な時は紹介して頂き、医師と連携しながら早期退院に結び付けている。外泊時の準備やケアの注意点や薬についてご家族にお伝えしたり、渡船場迄や近くに住んでいる妹宅への送迎をおこなったり、ご利用者・ご家族が安心して暮らせるよう支援している。	○	地域の方のご要望に応じて、個別の介護相談をおこないたいと考えている。ニーズに合わせた介護相談は、「域の方が困っている時は、いつでも相談にのって頂ける」という地域の方の安心につながり、地域の中で介護の拠点となっていられる事に期待していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご希望の医療機関をお聞きし納得と同意の上で、協力医療機関で受療して頂いたり、以前からのかかりつけ医で受療される方があり、いつでも相談できる状況である。職員が通院介助をおこない生活状況を詳しくお伝えしたり、ケ時に注意している事をお伝えし医師との信頼関係は築けている。受診結果は変化がない時も速やかに報告しており、ご家族だけで通院介助された時の結果も把握できている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療的処置が中心になった場合を除いては、ターミナルケアをおこなう事をお伝えし、ご利用者・ご家族のご意向を把握できおり、ホームで対応できる範囲等についても話し合っている。ご利用者の状態変化が合った時にご家族と、繰り返し話し合いながら他施設に移れる事をお伝えしている。内科疾患の進行から食事摂取量が低下し、医師・看護師の往診・訪問を受けながら点滴治療を続け、医師・ご家族・職員と話し合いの上、入院治療をされる等ホームでケアできる範囲の対応をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「危ない」「ダメよ」と思わず言葉がでる事や、業務が重なった時に自分の気持ちの焦りが、言葉の中に出てくる事に自分で気付き、職員同士で注意し合い互いを支え合っている。入居者が馴染まれている方言を使う時も、目上の方に対する尊敬の念を持って接し、体調や精神的な面も合わせて排泄パターンを把握しており、自然に「行ってみようか」と誘導されている。個人情報に触れる話を職場以外で話す事はなく、情報の漏洩防止について徹底させている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムが取れるよう声かけはするが無理強いはずせず、ご利用者のペースに合わせて「これをしましょうか」と尋ね、ご利用者のご希望を引き出せるように関わっている。ご利用者思っている場所ではなくても、行きたい時に行きたい場所に行けるようその時に対応している。何もせず寝たきり・座りっぱなしにならないよう、興味を引きそうな事を探したり、ご家族のご協力を頂きながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいかお聞きして献立を考え食材の買い出しと一緒に رفتり、調理の下ごしらえや味見、食器洗い・食器拭きや後片付け、テーブルやお盆を拭いて頂いている。職員も一緒に食事をしたり、菜園で収穫した旬の野菜を食事に採り入れたり、釣りたての魚をご家族から頂いたり、郷土料理の‘にごみ’やツワ・ゼンマイ・筍等の煮物を採り入れている。ドライブの時に外食したり、行事の時にご家族と一緒に食事を楽しんで頂いている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間に関してご利用者から強いご希望はないが、漁村地域である事や通常の生活リズムを考え午後3時～5時に毎日入浴できる。体調に無理のない範囲で入っている時間・湯温、順番やシャンプー・石鹸・入浴剤等、好みに合わせて対応している。一人ずつの入浴や危険がない部分は職員も浴室から出たり、裸になる事で不安になられる方には、職員二人で介助し常に体を支え安心して入って頂いている。入浴を嫌がられる方は入浴前に、ご家族と話でお話しされ入浴を勧めて頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農作業が好きな方は畑の草取り・苗の植え付けをされたり、時々近くに住んでいる妹宅へ行かれたり、歌う事が好きな方がおられ時々ミニコンサートを開き、皆と一緒に歌っている。人のお役に立ちたいと言われる方には同郷の方のお話し相手や肩揉みをして頂き、職員も助かっている事をお伝えし、ご利用者お一人ひとりに役割・楽しみ事を持って頂けるよう支援している。ご利用者が落ち着かれない時につききりになる事があり、常に待つ姿勢で関わっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者に馴染みのある西海橋や造船所・海を見に行ったり、ホーム周辺が生まれ育った場所に似ていると近くを散歩したり、島の自宅が見える所へドライブや以前行ったことのある甘味処に行ったりしている。ご利用者の希望をお聞きしながら外出し、外出が困難な方も気分転換や五感刺激の機会を積極的に作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せずに職員が作業する場所や立つ向きを工夫し、ご利用者の落ち着かなくなる時間帯・傾向・原因を、予め把握し事前に対応している。ご利用者がお一人で出掛ける時に歩いて行かれる方向を確認しながら、行かれる方向によって行き先や所要時間も把握できっており、帰って来られるのをお待ちしております。帰る場所を間違えてご近所のお家におじゃまする事もあり、ご近所の方から知らせて頂いたり「来てくれてありがとう」と、立ち寄ってくれたと言って頂いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	一部職員・ご利用者と一緒に火災を想定した避難訓練を毎月実施し、時に消防署の方にも参加して頂いている。近隣の方や施設に災害時の協力依頼をおこない、消防分団長に協力依頼に訪問した際に消火活動は行うので、ご利用者の対応・避難誘導をホームでおこなうように助言を頂いた。災害に備えて救急用品・飲料水・カップラーメン・懐中電灯・タオル・紙パンツ・尿取りパット・新聞紙・ゴミ袋を準備している。	○	夜間の災害発生を想定した訓練の実施や、ご家族・地域の方にも避難訓練の実施をお知らせし、定期的に訓練に参加して頂き実践的な訓練をおこなう事で、役割分担や必要な協力についての確認・理解につながり、冷静沈着に行動出来ると考えられる。今後の更なる取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用している食材の配達で足りない物を買出しに行き、ご利用者の好みに合わせて調理法や、盛り付け・食形態を変えたり、飲み物の種類やおやつを選べるようにしている。一日の食量・飲水量を把握・記録し、提供した食事の記録を定期的に、法人施設の栄養士にチェックしてもらったり、病状によって医師からの助言を頂いている。自力摂取をされない時に主食をパンに替えたり、水分をゼリーにて摂取して頂く等、個別の食の支援をおこなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓によすがが掛けられ陽射しを調整しリビングは柔らかな灯りで、ご利用者と一緒に季節に合った色合いの壁の飾り付けや、年中使える手作りの大きなカレンダーは、月毎に日付を入れ替えたりしている。廊下の壁のつくり付け飾り棚に観葉植物や季節の花が飾られ、洗面の時にご利用者に合わせて椅子が置かれたり、安全で使いやすい工夫がされると共に心安らぐ空間となっている。天気の良い時や掃除の時に換気をおこない、リラックス効果や消臭を兼ねてアロマオイルを使用している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご希望に合わせて畳の部屋を準備したり、落ち着かれない時は部屋に畳を敷いて対応している。使い慣れた箆笥を持って来られたり、畳ベッドや椅子、自分で書かれた絵手紙を貼られたり、博多人形を飾り好みの物を活かして、居心地良く過ごせるような工夫をされている。		